



大いちょう

平成30年10月 2日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 平成30年度 No. 6

048(829)2737

実りの秋

校長 並木昌和

2学期のスタートは猛暑が残り、運動会の直前は雨が続いた天候でした。そのため十分な練習もままならない中で運動会を迎えました。本番当日は、午前部の途中からの降雨のため、残った演技を予備日に行うことになり、子どもたちや来校された皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

子どもたちはこうした悪条件にもかかわらず、今年も素晴らしい運動会を実現してくれました。本校の子どもたちのもっている力に、あらためて感心しました。あわせて、真剣に演技する子どもたちに大きな力を与えてくれた保護者・地域の方々の大きな声援と拍手に感謝いたします。皆様からの温かい眼差しがあって、子どもたちは快い緊張感と達成感を味わいました。

980人程の子どもたちが心を一つにして何かを成し遂げることは、当日だけでできることではありません。その準備段階がどうであったかが大きく影響するものです。

応援団の皆さんは、赤組団長の西さん、白組団長の石野さんを中心に休み時間も練習したり、各教室を訪れ応援の仕方を指導したりしてくれていました。金管バンドの皆さんは毎日、演奏の練習を重ね、児童会の皆さんは「全力 白熱 炎 チームワークを見せつける！」というスローガンを決め、みんなの心を一つにするための努力をしてくれました。係の仕事をもった高学年の皆さんは縁の下の力持ちとなり、運動会を支えてくれていました。リレーの選手に選ばれた皆さんは、慣れないバトンパスの練習に戸惑いながらも練習を重ね、質の高いリレーを見せてくれました。また、休み時間に教室や校庭で、学年の表現を友だちと確かめ合っている子どもたちの姿を見ることもできました。

そうした子どもたちの努力が実を結び、運動会が成功したのだと思います。自分たちの運動会をよいものにしようとの子どもたちの思いが立派な演技に結びついたことと思います。子どもたちの思いを達成させ、よい経験をさせようと支援を続けた教師の姿もありました。一生懸命に取り組むことのできる子どもたち、それを支える教職員、応援していただける保護者・地域の方々・・・誇らしい気持ちになりました。

子どもの力を高めてあげること、質の高いものに触れさせてあげることが、子どもに希望と強い意志を育むものです。その点からも、全児童が一堂に会して各学年がその発達段階にふさわしい演技を披露し見合う運動会は、大きな価値があると考えます。一生懸命に演技に、応援に、係の仕事に頑張っている子どもたちを嬉しく、また頼もしく思うとともに、運動会を通して子どもたちがまた大きく成長したことを感じました。

さて、30年度も後半になります。実りの秋という言葉に象徴されるように、読書や学習、運動に最も適した時期です。本校では読書週間の取組や校外学習・校内音楽会などを計画しています。運動会での経験を生かして子どもたちがどのような実をつけてくれるか楽しみです。